

研究テーマ	[Ⅲ 自分らしさを表現する造形教育を考える] 発想をもとに自分らしい表現を生み出すための題材の工夫 ー小学4年生「物語の世界」の実践を通してー
-------	---

那珂市立瓜連小学校 講師 砂押 秀明

1 研究テーマについて

「自分らしさを表現」することは、他人の評価ではなく、作者が自分の作品に対して抱く感覚であろう。自分らしさには、個性が深く関係する。個性は、たとえ模写であっても作品ににじみ出るものであろうから、その個性に作者自信が気づけるかどうか、自分らしい表現ができたといえるかどうかの鍵となるはずだ。作者が、「こんな作品を作りたい。」とイメージしたことで、実際に完成した作品とを比べたとき、「イメージ通り。」または、「十分満足。」と感じられたとき、「自分らしい表現」ができたといえるのだと考えられる。自分らしい表現を生み出すためには、まず、完成作品のイメージをもち、それを実現するためにどうすれば良いかを考え、自分なりの表現方法を工夫したり、様々な描画用具を選んで製作したり、表現手法を選んで作品を完成させたりして、「イメージ通りだ。」と感じられれば「自分らしさを表現」することが出来たといえる。また、作品の完成までの過程で、取り組んでいた手法が困難だったり、他の人の作品を見て、自分の表現に取り入れたりするなど、試行錯誤をする中でも、「自分らしさを表現」する方法を見つけ、作品完成時には「十分満足」と感じられ、「自分らしさを表現」することができたといえるのではないかと考える。

2 実践例

(1) 題材名 物語の世界

(2) 題材の目標

物語の心に残った場面の様子や気持ちを想像し、自分の気持ちに合った表し方を考えて表現する。

(3) 題材について

絵画についてのアンケート(4年1組 男12名 女19名 平成24年10月19日実施)

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・絵をかくことが得意ですか。 得意 6名 ふつう15 苦手10名 ・今までに学習したかきかた、道具の使い方。
スパッタリング、グラデーション、吹き流し、スタンプング、クレヨン、水彩絵の具、割り箸ペン、ローラー |
|---|

本題材は、A表現(2)ア「感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。」の内容であり、物語の心に残った場面について、場面の登場人物の様子や気持ちを想像し、自分の気持ちに合った表し方を考えて表すものである。発想のもととなる物語は、読者によって場面の様子や、登場人物の気持ちのとらえ方が異なる。そのため、児童が絵に表そうとするとき、自分で自由に発想を膨らませ、場面の様子を表現することが期待できる。

テーマに迫るための手立てとして、まず作品製作のイメージをはっきりともてるようにするため、「アイデアカード」に、アイデアスケッチに加えて、作品の完成像を言葉でより具体

的に書かせる。表現の手法が思いつく児童にはそれも同時に書かせたい。次に、作品の製作中に、中間鑑賞の時間を設ける。他の児童の途中経過を見ることで、自分の作品の良さや、作品の特徴に気づかせたい。また、友達作品から、自分の作品作りに生かせることを見つける場としたい。表現の手法の選択肢を広げるため、これまでに使ったことのある表現手法をどれでも使ってよいこととして、自分に合った表現手法を選ばせる。同時に、失敗を防ぐために、十分に練習の時間をもたせる。鑑賞の時に、誰もが物語の場面を思い起こせるように、国語で学習した物語の中から場面を選ばせる。

(4) 題材の評価基準

関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
物語の好きな場面の様子を想像し、工夫しながら絵に表すことを楽しもうとしている。	物語の好きな場面の様子を想像し、表したいことをどのように表すか、形や色などを考えている。	心に残った場面や自分の気持ちに合わせて、描画材を選んだり、絵の具の使い方を工夫するなど、表し方を工夫している。	作品を友人と見せ合って話し合い、共通点や相違点、表現の工夫などをとらえている。

(5) 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価基準・【評価方法】
第1次 ①	アイデアカードを使って作品づくりの構想を練る。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や絵に表現したい場面を選ぼうとしている。 <p style="text-align: right;">関【観察・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアスケッチと言葉で作品づくりの構想を練ることができる。 <p style="text-align: right;">想【観察・ワークシート】</p>
第2次 ④	自分に合った表現手法で表現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の好きな場面の様子を想像し、工夫しながら絵に表すことを楽しもうとしている。 <p style="text-align: right;">関【観察・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面や自分の気持ちに合わせて、描画材を選んだりするなど、表し方を工夫している。 <p style="text-align: right;">創【観察・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品と比べながら、自分の作品の良さに気付くことができる。 <p style="text-align: right;">創【観察・作品】</p>
第3次 ①	作品を鑑賞し合い表現の工夫を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を友人と見せ合って話し合い、共通点や相違点、表現の工夫などをとらえている。 <p style="text-align: right;">鑑【観察・ワークシート】</p>

(6) 本時の展開

①目標

場面や自分の気持ちに合わせて、描画材を選んだりするなど、表し方を工夫している。

(創造的な技能)

②準備・資料

児童：画用紙、水彩絵の具、アイデアカード、クレヨン、雑巾、新聞紙

教師：ローラー、割り箸ペン、金網、ブラシ、スポンジ、画用紙 厚紙

③展開 (90分)

児童の活動	・教師の支援 ⑧評価
<p>1 本時の活動を確認する。(2分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分に合ったかき方を見つけてかこう。</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>完成目標</p> <p>場面や自分の気持ちに合った絵 (アイデアカードで確認)</p> </div> <p>2 取り組む表現手法を選び、試す。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>スパッタリング グラデーション 吹き流し スタンプング ローラー…など</p> </div> <p>3 自分に合った表現手法で表現する。(70分)</p> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">アイデアカード</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">文やメモ</div> <div style="font-size: 2em;">+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">アイデアスケッチ</div> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">画材の選択</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">表現手法の選択</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">スキルアップ</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">中間鑑賞</div> <div style="font-size: 4em; margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分らしさを表現</div>	

4 本時の活動を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。(2分)

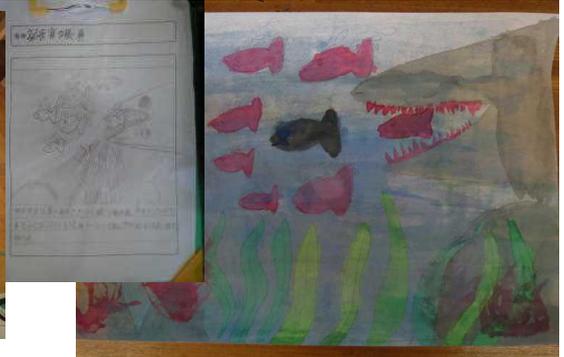
・ 次時は仕上げを行い、作品を完成させることを伝える。

5 後片付けをする(6分)

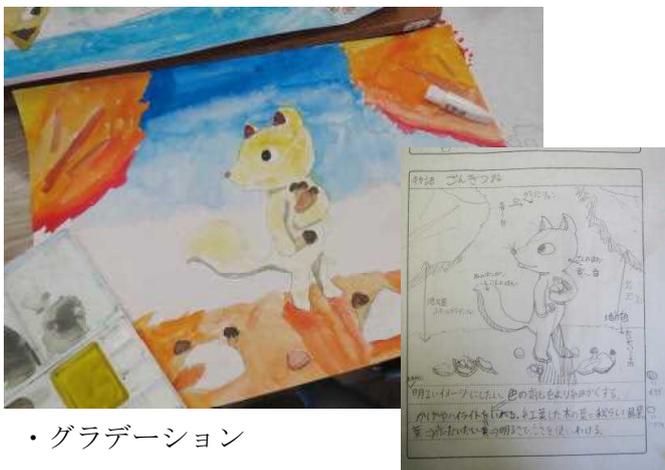
3 成果と課題



・ スパッタリング



・ 暗い海の色。



・ グラデーション



・ スタンプング



・ ローラーと貼り絵



・ アイデアカードを見ながらの製作

○ 成果

- ・ アイデアカードに文章で作品のイメージを書かせたことで、文章を書きながら、どのように描くのかを考えている姿が見られた。このため、普段、何をどう描いていいのか思いつかない児童の発想や構想の手がかりとなっていた。また、「とても暗い。」とか、「すきとおった青。」などの言葉で場面の様子を表したことで、それを強く意識しながら描くことができ、「自分らしい表現」につながったのではないかと考えられる。
- ・ 中間鑑賞では、他の児童の製作中の作品の様子を見ることで、自分に合った表現手法に変更したり、友達の選んだ表現手法の良さに気づいたりすることについては効果があった。失敗しないためのコツを教え合う様子も見られた。
- ・ 3次の鑑賞の後、自分の作品についてイメージ通りに描けたかについてふり返しを行ったが、「イメージ通りに描けた。」または「イメージに近い。」と答えた児童は31名中24名であった。逆に失敗してしまった所がある。と答えた児童もいた。

○ 課題

- ・ 絵を描くことに苦手意識をもっている児童は、アイデアカードにスケッチを描く時点で目標を低く設定してしまったり、うまく表現できなかつたりしてつまづいてしまうケースが見られる。そのため、失敗を繰り返しながらも画用紙に何度も下書きを描いた方がつまづきを回避するには有効な場合もあった。
- ・ 中間鑑賞については、自由に作品を見て話し合う場としたが、あちこち作品を見て回る児童や、一つの作品を熱心に見る児童、自分の作品の説明に時間を費やす児童など、児童によって取り組みがまちまちになってしまっていた。気に入った作品を選び、付箋紙などに、感想や気づいたことを書いて友達に渡す言語活動の場としてもよかったと思う。
- ・ 「自分らしさを表現」することについて、表現できたかどうかを客観的に判断するための方法を見いだせず、児童のふり返りの感想の中で、イメージ通り描けたかを確認することに留まった。アンケートを行う方法もあると思うが、児童自らが判断できるかどうか疑問が残る。
- ・ 国語で学習したの物語の場面を描いたことは、鑑賞時、児童がどの場面の絵なのかを知っていることで、話し合いの活発化につながったが、教科書の挿絵の印象がそのまま表現につながっていた児童もいた。挿絵のない物語を題材とすることで、児童の思いをさらに引き出すこともできたように考えられる。

